

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
 毎月1回1日発行
 定価1部15円
 印刷所 田辺印刷株式会社
 上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林尚一
 発行所 社団法人千曲会
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内
 振替長野6243・東京43341
 電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

新春 新任のあいさつ

社団法人 千曲会理事長 山口 定次郎

昭和40年の新春を迎えるにあたり、母校教育、職員、全国の同窓会員そして学生各位のご健勝を寿ほぎ、新しい年がいよいよご多祥でありますよう切にお祈り申し上げます。

さて昨秋第25回千曲会総会において役員改選により、思いがけなくも、不肖私が理事長の大任を仰せつかることになりました。前理事長萩原清浩氏は昭和35年秋から4年間、数々の功績をのこし今回勇退され、私がおののうけた次第であります。私の光栄これにすぎないことはありませんが、自分がその器でないことを一番よく承知しておりますし、いろいろ難しい時期にありますので甚だ困惑いたしました。初代理事長蒲生係興先生をはじめ優れた先輩各位により継承された歴史ある千曲会の盛衰がこの小肩にかかっていることを思いますと、いまさらのように責任の重大さに戦かざるをえません。しかしながら幸いに今回も多数有能な理事諸氏が選ばれましたし、顧問相談役各位のご指導、ご鞭撻もえられますので、これに力をえて、ひたすら心をつくし力をつくして事にあたる覚悟であります。よろしくご協力のほどお願いいたします。

申すまでもなく、同窓会は母校あつての一団体であります。母校は私たち人生の歴史の一頁を作った所であり、多感な青春時代を過ぎた第二の故郷でもあります。母校を中心とする卒業生の、精神的な、学術的な、あるいは社会的なつながりでありまして、卒業後どこにあつても、そして死後といえども縁が切れるものではありません。母校は一人一人の喜びをよる喜び、悲しみを悲しみ、傷ついた者に対しては牝鶏がその翼の下にひなを温かく大事にかばってくれるように母親として情を示してくれます。従つて、卒業生は何年たつても母校をたのみとし、学校の限りない発展隆昌を念じ、先輩は後輩を無条件に、学問、事業、そして身の上の相談にまでめんどうを見てくれます。そして一たびことある時は母校に馳せ参じて全面的に協力しようという心情になります。こういう関係にあつてはじめて母校と同窓会とは表裏一体の間柄であるといえるでしょう。人間が孤独ではありえない限り、こうした団体が心の拠点となり、一人一人の活動の原動力となり、どこにあつても立派なはたらきをさせてくれると思います。こういふことは卒業後すぐには痛感しないでしょうが、5年、10年と非情な社会の風波にもまれ悩むようになると、意識に上ってくるものと思います。私は学生時代を含め、40年余りの長い年月を母校と同窓会のお世話になってきたものですが、願ひみて今日までの「千曲会」は正に全国にもまれぬ典型的な同窓会ではなからうかと自負し、誇りをもっているものであります。

戦争直後の混乱時代は、同窓会も非常に運営困難に陥りました。また専門学校が大学に変わつてから、同窓会も何か異質的なものつながりとなり不自然な事がおきねばいかと

心配しましたが、これは杞憂に終り、以前にもまして先輩は無条件に後輩を引立て愛顧し、新卒業生も先輩を信頼し尊敬し、まことにうまく調和していることが判りました。また数年前までは若い人が同窓会に関心がうすいとか、支会の会合は古い人許りの会だとかいわれましたが、最近では、どこの支会へ出てみても、老、壯、若年ともに相和し談論風発、少しのへだたりもみられないという具合で大変うれしいことに思います。この藍には、もとより、支会長や幹事、先輩各位の物心両面の人知れぬご配慮があることもよくお察しできます。

ただ現在も続いている千曲会の大きな悩みは、会員が5000人ともなり、その動静が掴み難く、また会費の集まりが思わしくないという事実です。これは、自分一人位責任を果さなくとも会の成立には関係ないと思われるせいでしょ

うか。予算100万円内外の団体が納入率僅かに30%前後の会員の犠牲において会報の発行その他の事業が行なわれていることには大きい問題もありまして、本部政策の貧困ということにもなりましようし、理事者も支会長各位も考慮いたしておりますが、この解決策については会員各位のご意見を聞き終り下さつたり、ご協力をお願いいたしたいと思ひます。

ゆづりに本会の活動の詳細については、別紙総会の記事などにゆづりますがその主なものを2、3申上げます。

母校火災復興資金募集については母校50周年記念直後のことで、かなりご無理があつたのですが、募金実行委員会のご尽力と会員各位のご芳志により目標額の60%余を達成することができました。これは不日適当な方法で母校に寄付することになります。次に同窓会員名簿は昭和35年の50周年記念以来5年目の発行で、関係理事ほか委員諸氏の、長期間研究を犠牲にしてのご尽力により昨秋発刊、配布の運びとなりました。また千曲会報の発行については担当の理事ほか委員諸氏の懸命のご努力により毎月編集発行、配布を続けています。総会の都度、会費を納めぬ人には配布制限をすべしという声も聞かれますが、これは会員にとって唯一の血液であるからということで今は全会員にお届けしています。何卒事情ご賢察下さい。千曲会の年会費は長年300円でありましたが、今回の総会で40年度から年会費500円—このうち30%は支会へ還元交付—と決りました。ご承知下さい。一昨冬竣工を終つた、北佐久郡御代田町の信大寮「楓荘」は予想外の好評をばくし利用状況も100%です。支会活動については現在全国44の支会を数えますが一昨年12月から1年間に約20の支会が開かれこれには本部役員ほか賛助員の教官各位にもご出席を願うようになりました。公式の支会のほかに学科別や職域の部会も3、4作られ、着々と親睦の実をあげています。いまや母校繊維学部は、学部長の報告(会報No.148号)にあるように、著しい改新が行われて居りますが、激動しつつある社会の怒



滞りに大きく揺り動かされ、多くの問題をかかえて、悩みをつづけております。こんなときこそ私たち同窓会は、常に母校の舞台裏にあって、時にその協力者となり、時に同窓生のオアシスとなって、母校の隆昌と、同窓会の弥栄を念願してや

まないであります。

以上いささか雑感をのべて、新春、新任のあいさつといたします。

スキーはなぜ滑るか

—— スキーの界面化学 ——

信州大学繊維学部教授 黒 岩 茂 隆

スキーシーズンがやって来た。日常のいまわしい雑音や繁雑さからはなれて、まばゆい程美しい銀嶺の輝きに、そしてあの斜面を思い切り雪煙をあげて滑りおろしときのそう快きは、少しでもスキーをやったことのある人なら誰でも忘れることはできない。人間が機械的な推進力をかりずに、最もスピードを出せるのはスキーを滑ったとき以外にはない。先シーズンイタリアで行なわれた世界スキースピード競技選手権大会での世界最高記録は、時速170km以上というのだから、ジェット機が着陸するときのスピードと同じであるし、東京大阪間新幹線を走る特急の最高速度に近い。もちろんこれはスキーを本職とする世界的レベルのスキーヤーの話であるが、われわれ素人でも時速40~50kmは簡単に出来るし、少しスピードになれた人なら、60~70kmは平気である。

一体スキーはなぜこのようによく滑るのだろうか。スキーの滑走は、人間がスキーという物体を足につけて、雪という固体（正確には粉体といった方が近い）の上を滑るということをやっているわけである。団体同志の摩擦は普通は非常に大きいので、本当は滑りが悪いはずであるが、スキーやスケートに限って、なぜあんなによく滑るのだろうか。

この答は実は至極簡単である。それは誰もが知っているように、スキーやスケートは、それと接触している雪や氷の表面がとけて水ができるため、もはや団体同志の摩擦ではなくなるからである。水ができることは次のようなことから確かめることができる。例えば染料にはいろいろあるが、水にとけると色の変わる染料があるので、これを雪の上にはらまき、その上をスキーで滑ると、すべった跡は丁度その染料が水にとけたときの色になるので、水ができることだけは確かである。モーターの回転などのように、モーターの軸と軸受は団体同志の摩擦になるので、その部分に油をそそいですべりをよくする。この目的のために使う油を潤滑油とよぶが、スキーの場合、とけた水は丁度この潤滑油の役目を果たすわけである。

話はここで終るのなら、なにも殊更とりたてて書くほどのこともない。問題はこれからである。スキーはよく滑る。それは雪がとけて水になり、それが潤滑油の役目を果たすからである。それならばなぜ雪がとけるのであろうか。

1. 圧力融解について

水は0°Cで凍り始める。逆にいうと氷は0°Cでとけ出して水になる。このように固体が液体になる温度を融点という。いままわりの温度が0°Cであるとき、もし何らかの原因で氷の融点が0°C以下にさがったとすると、氷はもはや氷としては存在できなくなるので、とけて水になってしまう。何らかの原因とは何か。それにはいろいろあるであろうが、その一つは、水が氷になると体積が増えるので、人間が外から氷に圧力を加えて、もとの水であったときの体積にしようとするとき、氷は素直にそれに順応して水になってしまう。つまり融点がさがるのである。スキーで問題になるのはこのことであ

る。スキーには乗っている人の体重がそのままかかり、下の雪はそれだけ圧力をうけるので、その部分の雪はとけて水になる。だからスキーはよく滑る。と一応考えられるが、果たしてそうだろうか。

ここで必要なのは、それでは一体スキーの上に人が乗ったとき、下の雪にどのくらいの圧力がかかって、融点が何度位さがるとかという具体的な計算である。計算式の説明は省略するが、結論はこうである。いま体重60kgの人が長さ2mのスキーを使用したとする。スキーと雪の実際の接触面積が問題となるが、いまかりにそれがスキー底面積の1000分の1、結局接触面積約3平方糎であるとする、融点は僅かに0.15°しかさがらない。1万分の1、すなわち接触面積が0.3平方糎であると考えても、やっと1.5°しかさがらない。実際にはスキーは雪の温度-5°~-10°位のときが最も滑りよいものであることを思い起してほしい。こういう低い温度の雪がとけて水になるためには、融点は当然0°C以下5°~-10°までさがらなければならないが、そのためには接触面積は0.08~0.05平方糎以下でなくてはならぬ。これは実際のスキー底面積の4万ないし7万分の1に当りほとんど考えられないことである。早い話が、スキーですべった跡は必ず実際のスキーの中でスプールのえがかれるものであることを考えてもらえば、このことは容易に理解してもらえらるであろう。つまり実際にはスキーは案外大きな接触面積をもっているものである。したがっていままで普通に考えられていた、「スキーが滑るのは圧力によって雪がとけ水ができるから」という、いわば圧力融解説は実はほとんどスキーの説明にはならないのであるといえる。あやまってスキーを流したことのある人、いやそうでなくてもゲレンデでよく見掛ける光景であるが、スキーは別にあって人間が乗って雪に圧力をかけなくても、スキーだけでもよく滑ることを考えてみる必要がある。

2. 摩擦熱について

物と物をこすり合わせると、多かれ少なかれそこに熱を発生する。これはどんな人でも経験して知っていることである。これを摩擦熱とよんでいるが、スキーは実際はかなりのスピードで滑るものであるから、雪がとけるのはこの摩擦熱によるのであると考えることもできる。これは確かに有力な説で、筆者も現実には、ある日の夕暮近く、赤倉からの帰路、後から来た若いスキーヤーが、雪のない土の出かかった道路を勢よく滑ってきて、路上の石にのりあげたため、スキーのエッジから火花が散るのをみたことがある。イギリスのケンブリッジ大学のBowden教授も、スキーがよく滑るのは摩擦熱によって雪がとけるからである、ということを確認する幾つかの実験を行なっている。もしスキー滑走面の材料が非常に熱伝導性のよいものだと、せっかく発生した摩擦熱も外へ伝わってしまっ、それだけ雪をとかしにくくなるので、滑りが悪くなるということも上の考えの正しいことを裏付けているものと思われる。

しかしこの摩擦熱も、実際のスキーと雪の場合について計算してみると、意外に小さなものである。このことは Bowden 自身もみとめており、余り雪の温度が低いと摩擦熱だけでは雪がとけないので、滑りが悪くなるといっている。さき程の火花の話も、あれは石と金属との摩擦で、スキーと雪とでは発生する熱量も違うのである。しかも摩擦熱は、スキーと人間とをひっくりかえした全体の重さや、雪との接触面積に関係があり、加重が重い程、接触面積が小さい程大きい。またスピードにも直接関係するものである。例えば体重60kgの人が普通のスピードで滑る場合、 -5°C 以下の雪を摩擦熱でとかすには、スキーと雪の接触面積は少なくとも約0.4平方厘以下でなくてはならなくなり、この点問題は上述の圧力融解の場合に似かよっている。

つまり摩擦熱は、雪の温度、加重、接触面積、スピードなど、条件によってはスキー滑走(なぜ滑るか)の有力な主たる原因になっても、それだけがすべてではないようである。わかりやすい例をあげれば、スキーというものはゆるい斜面でも(たとえスピードこそおそくても)とにかく滑ることは滑るものである。とくにこういう場合には、滑る原因を摩擦熱以外の何かに求めなければならなくなる。摩擦熱説を主張する Bowden も、とくにスピードのおそい場合には摩擦熱以外の原因によることをみとめているが、それ以上のことは何もふれていない。

3. スキーと雪との界面

氷とか雪というと普通われわれはその全体を思い浮かべるだけであるが、氷の表面、雪の表面(正確には水蒸気をまじえた空気との界面)ということになると、実際にはその内部と性質の全然違った別の状態(“相”という)のものであることを余り知らないし、気がつくこともしない。これは何も氷や雪に限らず、すべて物質はみなそうである。例えば水を考えてみよう。ちょっと無理な表現になるかも知れないが、しかしわかりやすくいえば、水というものは現実には、水の表面という内部とは性質の違った一つの薄い層でその全体がおおわれた、いわばベールをきた姿となってわれわれの前にあらわれるものである。氷しかり、雪しかりである。こう考えてみると氷の表面層、雪の表面層をつくるものは一体どういう状態のものであろうか、という疑問がわいてくる。そして雪とスキーの滑走面が相接触したとき、滑走面材料の種類、性質によってそれがどのように変わってくるのか。これが“スキーはなぜ滑るか”という命題を解明するもう一つの考え方であって、滑走面材料としてはどんなものを使用したらいいかという問題の解決にもなるわけである。

ちょっと話が抽象的になりすぎて、或はわかりにくくなってしまったかも知れないが、要するに、すべて物質表面はなるべく外界と互に連続相をつくらうとする傾向をもつもので、氷や雪の表面も、いろいろな気象条件や雪質に応じて、それに直接接するスキー滑走面材料の適当なものをえらびさえすれば、いくらでも潤滑に有効な水の薄層ができるのである。これがスキーやスケートがよく滑るもう一つの理由でもある。この辺のことはもっと具体的にわかりやすく書くといひのであるが、大部許された紙数に近づいてきたので、話題を次に転じ、できればその中にこの問題をもり込んでみたいと思う。

4. スキ滑走面のぬれについて

いままでは、スキーはなぜ滑るか、その理由についていろいろ考えてきた。そして結論ははじめの方にもかいたように、雪がとけて水になり、それが潤滑油の働きをするからであるという一語につきるわけである。では雪がとけて潤滑油としての水ができれば、もうそれでよいかという点必ずしもそのいはいかない。例えばもしスキーの滑走面が水にぬれやす

い性質のものであれば、とけた水は滑走面にべったりくっついてしまって、かえって潤滑油の用はなさなくなり、滑りは悪くなる。これはスキーと雪との接触界面に強固な水の膜が一面にできて、それがスキーの滑走に大きな抵抗となるからである。したがってスキー滑走面は出来るだけ水をはじく性質をもったものでなければ何にもならない。この性質を撥水性というが、滑走面材料としては、概してこの撥水性の大きいもの程性能がよいということも、いろいろな実験の結果からわかってきた。

だがこれはあくまでおよその目安であって、スキー滑走面の性能をぬれという一面だけからみる限りはそれでよいが、実はそう単純なものではない。以前は気象条件や雪質によってワックスを使いわけたり、最近では滑走面材料としてポリエチレン樹脂その他のプラスチックを使用することが普及してきた。これらはすべて経験から来たものであるが、これらの材料について筆者の研究室で行なった実験の結果によると、概してパラフィンやワックス類の方がポリエチレン樹脂その他のプラスチック類より撥水性が強い。ところが温度の低い乾燥雪ではどちらかという、プラスチック類の方がよく滑るようである。またスキーはできた水が潤滑油の働きをするのであるならば、始めから水分を含んだ雪なら殊更よく滑るはずである。しかし実際は雨の降った後の含水分率の多い雪や、春先き気温のゆるんだ頃のいわゆるぬれしまり雪では、ポリエチレン樹脂のスキーの方が性能はおちる。こういう場合には撥水性の強いパラフィンやワックス類の方がむしろよいようである。これは上述の考えによれば、温度の低い乾燥雪に対しては、かえって幾分撥水性の弱いプラスチック類の方が雪との界面に連続相が、したがって水の薄層ができやすくなるためとも思われる。が詳細はもっと滑走面材料がもつ表面のぬれ以外の化学的、物理的性質と関連させて検討すべきで、むしろ今後の研究にまたねばならない問題である。

カライズ"カラー カフス



ワイシャツ地そのままのソフトな肌ざわりに糊の効いたシャープな切れ味を添えたものが、カノライズカラー・カフスの特徴です

高原 シャツ

㊦ 日本工業規格表示許可工場

高原シャツ株式会社

更 埴 市 屋 代

さ ろ ん

驥山先生訪問の旅

戸 倉 八 峰

天下の書道家、川村驥山先生は、我が袋井市宇村松が生地、その出身であることはかねがね聞いていたが、面談するのは初めてである。

昨39年早春3月、北信の旅の時、前泊地戸倉温泉から老妻と共に、篠ノ井市の驥山会館に先生を訪問した。

聞きしにまさる驥山館は広大な敷地に、2階建鉄筋コンクリートの立派な洋館に驚いた。

之は長野県が県費で、数百万円を投じて新築して、驥山先生に寄附贈呈して、篠ノ井市名誉市民として老大家を遇するのは見上げた美挙であると共に、如何に驥山先生の偉大な人格、書道の最高の偉



私邸の庭にて驥山の肉筆「寿」を持つ八峰浪士 (39・12・22写)

人なるかを物語るものである。

先ず名刺を渡すと、女秘書の誘導で、特に近隣地の林檎園の間にある御私宅へ車で御連れ下さって、その奥座敷の清楚なコタツに案内され、いともインゲンに御面談された。

彼驥山は幼少の時生家在住時代、私の亡父先代惣兵衛をよく知っていました、との事でした。

八十余才を過ぎた肥大の翁の物静かに話が初まった。

若い頃袋井の生家で五才の頃から敵父のきびしい躰け教訓のもとで「書」を習わされ、明治30年頃高等小学校を卒業後も日々書道をあげみ興味も出て来て、益々上達、名声を世に響かせ、押しも押されぬ天下の名人になった。

17才で家を出て、全国行脚、書道偏歴修業を続け、中年の頃10年ばかり神戸に足を止め、ここで妻帯、その頃抜群の大家として世に認められた由、詳しく物語られて、その精神振りに驚かされた。

其の後上京して、銀座に書道所を開設し、第一流の書家として全国最右翼の名人素となと、宮内省へも出仕を命ぜられた。

晩年近く戦災を避けて信州篠ノ井に疎開して、今日迄居付いたのです、と語られ袋井の生れ故郷へ帰る術もなく、日々を過ごして、古里なつかしの思いにふけるのです。と老顔に一寸淋しきの暗影も見受けられた。

家墓は袋井の菩提寺の之屋敷敷跡、油山寺に、数年前新造して年1、2回は帰省するのが何よりの楽しみですと、切々と語られた。矢張り生れ郷里はよいもの慕郷の念は常に頭を去らぬ、が万人の人情と云うもの、勿論死後生地に骨を埋める算段と感付かれた。

この偉人に接して最高峰の山上にきた様な崇高な靈感を私「八峰」は感受して訪問の甲斐充分なりと喜びに浸った次第である。

長野県は巨大な「人格像」を終世篠ノ井市に釘付けして羨しい。之に反して袋井は后手を打たされて敗け勝負。

話変わって八峰浪士も本春馬胎「古稀」を迎えるので、記念刊行書「破礼衣裳」を書くので、祝字「寿」の一字を大きな色紙に書いて頂く様に昨秋懇請した所、無雑作に快く送って下さって光榮ある、記念の額を居間に掲ぐる事が出来た。

之は余談だが、この「寿」をよくぞたのみ込み、又一方驥山も簡単に快諾してよくぞ書いてくれたものだ？

一文字何十万円とか言われているが、一体いくら要求されたかと聞く人々もあった。私は曰く「一銭も請求はなかったので、心ばかりの御礼のしるしに、俠客森の石松で聞こえている近くの遠州森町の「森山焼」の赤色花瓶中型一箇五千円の一寸した銘品を贈送したら、大変驥山先生喜ばれて丁寧な礼状が来た丈だ」…と淡々と事実通り語ったら皆曰く、「両方共どっちもどっちな人々で……」と言われたのが、この余談話の「オチ」である。

さてこの頃もっと考えたのだが、驥山を通じて篠ノ井市と袋井市は何か奇しき因縁がある様に思われてならぬ。そこで思うのに、篠ノ井市と袋井市とを、姉妹都市の縁結びを考えたらどうだろうと。

勿論之は一私案で両市ともいろいろの比重関係その他諸条件など慎重審議研究の必要は大いにあるだろうから、一野人のこの夢をウツカリと放言は、禁物だが一私案として論議機関にも掛け、与論の動向も充分検討の上、取捨しては如何で御座る篠ノ井市さん？。又袋井市も如何で御座る？。

そして驥山を袋井市の名誉市民に推挙

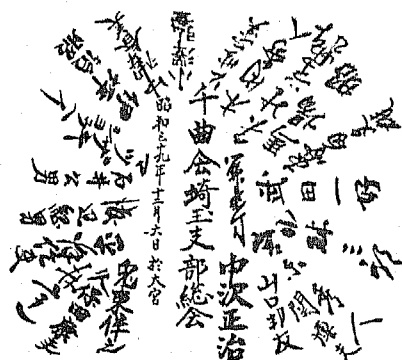
しては如何のものならんか。山国のリンゴと遠州灘の汐風と堅き握手を！

三ヶ年曾任曾学の地、北信は私の第二の古里なるが故に、年1、2回信濃路の春や秋を訪ねたいので、斯く念願しつつこの訪問記のペンを開く。(39.12.22)

埼玉支会総会記

年の瀬も近づいた12月6日、本年度総会を大宮の東山御寮旅館で開催した。本部より御多忙中のところ関先生の御来駕を戴き、出席者21人にて武田会長の挨拶本部総会出席報告に続き、関先生よりの母校並びに千曲会近況報告、続いて新年度役員と専門委員を上げ次の通り決定した。支会の発展を若い人により期待したいと特に支会長よりの発言もあり、各地区別多数の幹事を選出した。

- 支会長 武田一好(系19)
- 副支会長 林 宇一(系19)
- “ 松崎昇平(系20)



- 幹 事 相野田文雄(系31)大里地区
- “ 小林三郎(化1)北足立地区
- “ 飯島 啓(化5) “
- “ 飯村喜一(系33)比企地区
- “ 若林 稔(系37)児玉地区
- “ 馬場 昭(学系2)北埼玉、南埼玉、葛飾地区
- “ 山口邦友(学系2)入間地区
- “ 滝沢守男(学系2)秩父地区

会員 100名を越える大支会の今後の発展をこれら若い人に期待したい。一同乾杯のあと酒宴に移り、宴酣となるにつれ老いも若きも懐しい上田の学生時代にもどり、自己紹介もユーモアたっぷりであり、出席者も寄せ書きのとおり県下各地の大物ぞろいとあって若い人の意気も上り、時間の過ぎるのを忘れ、なごやかな談笑とどまるを知らず。最後は母校校歌の合唱となり皆上気嫌のうちに学部の発展と埼玉支会の万才を関先生の音頭で一同高らかに唱和散会した。(相野田記)

千曲会愛媛支会状況

愛媛支会長 工藤見吉

愛媛支会の総会も例年夏期に開催されていたのであるが、今年は晩秋蚕が終わってからと思っていた時、母校より田口、田中の両先生が全国大学農場協議会出席のために松山へ来られることを聞き、早速両先生の御出席を得たいものと思い、出張御予定を伺って早急に開催を決めたような次第で、開催通知が急であった事や、開催日が日曜日でなかったことなどのため昨年より出席人数は少なかったが、旧知の人々が集り楽しく談合できて有意義であった。

開催日 11月18日

場 所 松山市道後温泉宝荘

開催場所は例年宮崎先輩(蚕8)経営の宝荘にて開かして頂いているが、このことは愛媛支会としては有難いことである。

最近の観光ブームで道後にも立派な近代様式の旅館、温泉センター等が新築されて面目を一新して来たが、宝荘は最も早く建築された近代的建物で今では年代を重ねた奥ゆかしさが出ている。それに眺望もよく、高台にあって湯も道後一の浴場を増築中で立派な温泉ホテルである。

総会出席者は各方面に活躍されて居られる方ばかりであるので、各業界の現状或は将来などの話題を出して頂いた。当日自己紹介を兼ねて話された話題を簡易に記すこととする。

田口亮平(信大)火災復興資金の募集状況、焼失本館跡に新築されている建物の状況、学部編成、大学院設置など最近の母校の状況について詳細なお話があった。それに終戦当時松山の農大に居られた当時の状況などの話も出て食糧不足に困った話など皆んな昔を思い出す。その様な関係で、支会の準会員資格があり、愛媛支会の総会には度々御出席を得ている。

田中茂光(信大)機械化養蚕の方面の御研究で日本農業の現状および将来から見て今後の養蚕経営の在り方などについての御研究の立場からのお話は直接養蚕指導に関係しているものには参考となるお話であった。その他千曲会総会の提出議案についての御話があった。

宮崎清治(大10 蚕)益々壮健で、宝荘経営の責任は長男の方にゆづられ会長として相談役をやっている事だったが、拡張工事等の現場監督、外に出るは愛媛県観光協会、県旅館組合等の役職につかれ、長らく県庁勤務の経歴から官庁業界の連絡など活躍されておられる。9回職

業を変えたが現在の職業が最も良い職業で、その理由など体験から面白く話題を進め、日本経済の将来の話など又大正時代の上田生活、国敗れて山河なしなどと終戦後訪れた上田の話など話題は豊富であり、偉大な精力家の面目は依然たるものがある。

三好弥市(大10, 蚕)愛媛の新産業都市計画地区である壬生川で農地委員をされている。農村の現状、農村青年の動向等についての話、大正時代の上田の学生気質、同席の宮崎先輩とは同期で母校創立当時の状況が大先輩から後輩に伝えられて行く。

葉師神弁太郎(昭10, 蚕)蚕業取締所長として勤務される。愛媛県の蚕業全盛時代の昭和初年に比較し、現在は1割程度に繭の産額は落ているが、新しい養蚕が山間地帯に進展しつつある話は、斜陽産業だと言われる養蚕も愛媛では将来性のある産業である。

河辺謙(昭26, 紡)東洋レーヨン愛媛工場勤務。日本の繊維会社の生産量、

- 清水 邦憲(昭37, 学化) 所要のため
 - 安部 重(昭12, 蚕) //
 - 細田 博正(昭33, 学紡) 出席予定であったが前目になり急用
 - 益淵 誠正(昭9, 蚕) 出席予定であったが報告物の為徹夜作業により直前になって出席できず
 - 河淵 益美(昭6, 蚕) 高校研究会のため
 - 内川 勇(大15, 蚕) 研究会の為京都出張があり、当日帰る予定であったが御都合で欠席
 - 梶田 広貞(大9, 蚕) 別府にて療養中
 - 竹森 克巳(昭17, 化) 大阪におけるパルプ人権委員会に渡欧視察報告のため出張
 - 岩本 市郎(大3, 蚕) 例年御出席であるが急用のため
 - 中島 熊保(昭7, 蚕) 所用のため
 - 後沢 保夫(昭29, 学糸) //
- (敬称略)

本 会 記 事

千 曲 会 理 事 会 開 催

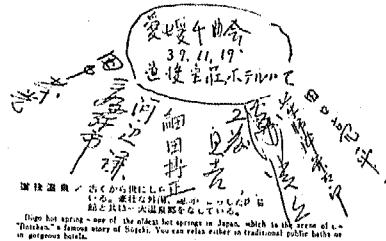
昭和39年12月9日午後2時から、千曲会館で改選後初の理事会が開催された。山口理事長外24名の理事出席、次第は、①山口理事長挨拶 ②荻原前理事長挨拶 ③事務引き継 ④議長選出は山口理事長議長として司会 ⑤議事

- (1)役員事務分担は別表のとおり決定、なお事務局書記として白井要範、小山よし子が了承された。
- (2)評議員選出総会において理事会に一任された事項で別表役員表のとおり決定
- (3)幹事委嘱について、大学院学生は幹事より除くことに決定。なお総会の時の事務分担についても煩雑なことはさせないように考慮する。
- (4)常任理事について、当分の間事務連絡会という名称で学部内理事と学外より3名の理事でやる。学外の3名のうち副理事長を含めることを考慮する。
- (5)総会に動議として提出された決議の取り扱いについて、決議文は当学部長および信州大学へ提出する。

信 州 大 学 織 維 学 部
公 務 員 宿 舎 完 成

かねて計画中の本学部公務員宿舎が、昭和39年12月10日に完成した。その大きさは13.72坪 2棟、11.39坪 1棟です。木造平屋建、瓦葺、外部モルタル塗です。場所は学部敷地の東で産業道路の近くです。

上田市踏入 信大織維学部手筒山宿舎と云います。



消費状況などからその経営の有様、今後の問題点等会社のために日夜努力されている状況などの話が出る。

菊川 武(昭30, 学化)東洋レーヨン愛媛工場テロン課勤務7年になる。河辺先輩と同様に日本繊維会社の現在受けている困難さ、これを打開するものは大きな立場に立つての努力研究に待たねばならぬことなどのこと。

工藤見吉(昭5, 蚕)卒業と同時に朝鮮へ赴任、終戦で郷里に引揚げ、地方事務所、蚕業技術指導所を経て、昭和27年より蚕業試験場勤務となり停年に達す。

以上大正時代、昭和初年、終戦後の卒業生の会合で年令歴や職場は異なるが、母校という話しの場があり、面白く有意義な会が出来、今後益々千曲会の親睦の実をあげていきたいものと思う次第である。

- 尚当日御出席出来なかつた方の近況は
- 浅沼袈裟男(昭9, 紡) 出張中
- 近藤 高男(昭26, 化) 所用のため
- 上田 岩男(大15, 蚕) //
- 中村 孟夫(昭26, 蚕) 検定成績整理中
- 波多野千里(大3, 蚕) 永らく病院通い中

第25回社団法人千曲会総会記

恒例の总会通常総会は11月23日勤労感謝の日午前10時から母校第1会議室において開催。出席者は宮崎支会中島茂支会長外23支会から代議員役員98名出席した。委任状提出は28名で定款第33条によって総会は成立し次の次第で進められた。

①理事長挨拶 理事長 荻原清治 ②名誉会長挨拶 織維学部長 小泉清明 小泉学部長挨拶は12月号千曲会報に“母校その後の一年”と題して講演大要を掲載したので参照されたい。

学部長は午後私用のため不在につき特別質問受付ける。上小支会より質疑があった。学部教養統合について、新聞等は既成の事実として取扱われているが、地元の支会、上田市民として奇異に受け取れるが、その利害得失、その再発生の原因、その動きを知りたい。

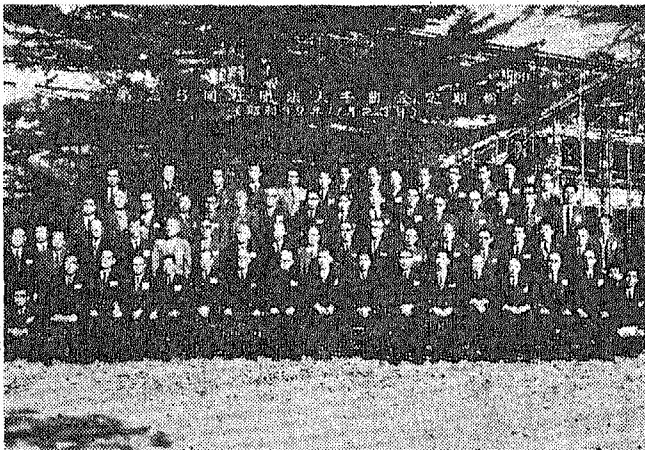
学部長 大学教育は一般教育、専門教育の2コースに分かれており、他の大学では一般教育は一ヶ所で行うようになりつつある。しかし信大では現在3ヶ所で行われている。これは一般教育の主旨にそわないし、学部相互間の学生の交歓ができない等の弊害を生ずる。国立大学協会ではでき

ば一ヶ所で一般教育をやりたい方針である。文部省では施設拡充10ヶ年計画があって、信大に関しては一般教育の統合をしないと新しい建物建設に協力しないと云っていた。昨年度の7月10日の最後の各部の統合に対する態度は医、農は賛成、文理は賛成であるがはっきりした態度を示さなかった。工学部は松本への統合は反対、織維、教育は学内の調整ができないという理由で保留した等の理由で昨年度この問題は一応保留の形となった。

本年になって新しい事態が生じた。ベビーブームによる大学生急増対策にともない、この10万名増加に対し国立大学では1万名を引受けなければならない。それはさておき文理学部は全国に14校あり、これが疑問のある存在である。これを改組拡充してこの1万名の内2600名を文理学部に引受けさせる。この主旨に従い本年は4校が認められ、文理を解体2~3の新学部をつくっている。

それによって信大文理学部は改組計画を文部省へ提出したが文理単独の計画は認めなかった。これは信大全体の問題として取扱うことを文部省は指示した。

一方教育学部の問題が生じた。これは教員定数の減少にともない教育学部の削減を計り、それを均減らす。本学の教育学部でも260名の減となり、分校を統合する状態となった。この結果教育の新しい人員配置の必要が生じた。それで事情やむを得ず継続審議の形で、教養学部統合に対し、再び問題とすようになった。それで各学部の態度は文理は理学部と教養学部案を持って、一般教育統合に全面的に賛成。教育学部は、分校廃止やむを得ない。あまった教育をあてはめる関係から賛成。医農学部は賛成と各々態度を示した。それにもなう一般教育計画案作成委員会を作りこれによって、計画案を来年度の概算要求に出すよう、3月末までに案を作る体制にいたった。これに対し松本一本



と云うことで、松本市長は郊外に10万坪提供したい旨を示した。本学部ではすべての面で松本に行くということは、不便であり、4~5日前の委員会、この計画案に対し、学部の意見を完全に反映させてしゃべるから、もう少しまってもらうように云って来た。本学部は24年の文部大臣の確約があり、その後もこれに関し緊密な連絡をとって来ているが、ここで教養部を切りはなされることは非常に不便である。松本に統合を文医両学部が賛成するのは、一つは地の利を得ているからであり私個人としては大学を画一的なものにするのは反対であり、専門大学を作るとの案を持っている。今日の日本の工業の発展にともなうて、工学部拡充を計っているが、本学部も織維にとどまることなくもっと奥行きを広くする様努力すべきではないか。例えば織維に縁の近い高分子工業研究所を充実させるのも一案であって、大学のありかたとして CaCapacity のみならず intencity を広めてゆくことが大切ではないか。

蒲生顧問 東信地方は学園都市としての立地条件をそなえており、ここに大学を招く運動をするならば教養統合をする前に、なぜ既存の当学部を拡充しないのかとの見識ある意見もある。また蚕糸教育を農学部と併合するのは本会としては不満足ではないか。ここに農工大学をつくって上田を

独立した大学にすべきではないか。との意見があり、後刻議題として提案したいとの発言があった。

③議長選出について理事長に一任との提案で議長に、武田一好氏(埼玉支会長)副議長に小田直人氏(静岡大学助教授)が全員拍手のうち選出され議事に入った。議案審議に入る前に、次の各報告事項について担当理事からそれぞれ説明があった。

④ 報告事項

- 1) 一般会務報告 山口理事
- 2) 会員名簿発行結果 関 理事
- 3) 会報について 小林 理事
- 4) 上田織維科学振興会事業 北条 理事
- 5) 針塚先生胸像について 山口 理事
- 6) 母校火災復興資金募集結果 町田 理事
- 7) 厚生施設「楓荘」利用状況 白井 理事

⑤ 議 事

- 1) 昭和38年度歳入歳出決算について 別紙38年度取支決算について町田担当理事から逐一説明があった。監査結果について竹内善吾監事が発言11月18日監事会を開き竹内、田口、山崎各監事により監査異常なき旨報告あり。但し、次のように附言された。
 - ①慶弔費について内部規約をはっきりして貰いたい。
 - ②千曲会役員の出張旅費について校外外のバランスが取れるようにして貰いたい。
 - ③会費納入について納入率が2割という低調さである。入会金の増額の考慮を要する。町田理事の追加説明あり。万場一致原案は可決した。
- ② 昭和40年度歳入歳出予算について ④ 会費増額について、一括提案。町田理事より別紙原案の説明報告あり。
- ②-③号議案についての質疑応答。

三重・三重支会は納入率70%多となっているが、会費の納入率増加策として現在の会報10回発行を中止し、年1回の名簿発行を行いその中に学校の様子ものを、それを会費納入者に配付するようにして貰いたい。

町田理事：経常費の半額は会報である。ただ今の意見によると経費の節減にはなるが、これについては会報係の意向を聞く。

理事長 経費について現在会費 300円を徴収しているがこのうち 100円を支会に交付して支会事業費にしている。これを 500円に増額し 150円を支会に廻すと本部では 350円で 300円の名簿を年一度発行するとすれば50円の経費しか残らない。名簿は本部では全く奉仕的でありこれを度々出すという事は考えているが、毎年出すという事になると相当に困難がある。

近畿・昭和40年度より会費増額して 500円会費案は賛成。会報は年 6 回で内容を充実して貰いたい。火災復興には、1500名近く集まったので、努力如何によっては会費納入率ももっと上るのではないか。

東京・会費の値上げは止むを得ない。しかし値上げにとまって納入率の減少が起らないか。現在東京では会員の掌握が困難である。要はたくさんの人に納入してもらうことである。会費の納入の方法論であるが、非常に各支会によって差がある。これでは一部の千曲会となって、会費 増額は将来ひじょうにさみしい。いかにして率を上げるかと云う手段をこうじなければいけない。本部ではこれについてどう考えるか。

町田理事 納入率向上に対する方策については前々から実施していたところである。まず会報で納入方の依頼をし、又支会長あてにそれぞれの支会の納入率を示して、向上に一層の努力を依頼した。さらに個人宛にも年1回 やって来た。各支部があるのだから支部にその努力を期待したい。

宮崎支会・増額については賛成。会報の発行回数は今までどおりでよいが、内容は身上相談、家族の就職、等の問題についても記入する欄を作り、親しみのあるものにして欲しい。

理事長・愛知支会は毎年納入率が非常によい。支会の方にどういう方法をとっているかお聞きしたい。

愛知・本支会では支会長、事務担当者の骨折に負うところが大きい。会報は現状でお願いしたい。

本支会員は約250名いるが、はじめは無関心の人もいたが、各人に通知を出し、納入のなかった人には返信用ハガキを使って再度督促し、徐々に納入がよくなった。

次に支会は主として親睦の場となっているが、若い会員はそれだけでは魅力を感じず、何らかの利益がないとつながりがきれやすい。会報は是非発行すべきだ。

議長 今迄の事項は新理事によって来年度までに考えてもらったかどうか。

一同 異議なし。

4) 会報について 山口理事から説明あり(別紙)

議長 質疑如何?

東京 会報の配布を支会に依頼したらどうか。

町田理事 現在その方法をとっている。支会は山陽、兵庫、神奈川、竜川、北信、長野県庁である。ただ支会に負担がかかるので配布料を本会で半額負担している。一括送付するという方向に行きたい。

議長 これに賛否を問う。

一同 異議なし。

香山理事 会費は多くの費用を使っているが、千曲会にとつては非常に主要な役割をもっているから回数を減らすことはさげたい。もし費用が足りないならば広告を取れば楽に

なるのであるから、会員各位のご協力をお願いする。

神奈川 本部からの会費還元レポートを支会活動を充実するためにも沢山願いたい。現在のワケ内では足りない場合は会員の寄付を願っている状態である。支会総会には賛助員の先生にも参加していただきたい。会報を待つ気持ちになる。若い層の把握を如何にするか考えて編集してもらいたい。

議長 賛否を問う。一同異議なし。

5) 定款一部変更について

山口理事 別紙 1. 会費増額 40年から年額会費 500円

2. 理事増員 現在25名を30名にする。

3. 大学院修士学生を(他大学からの入学生も含む)会員に加える。

議長 賛否を問う。一同異議なし。

6) 役員改選 7) 顧問、相談員、賛助員の推挙について。

山口理事 議案説明(別紙略)

議長 選考委員を上げてやってはどうか。一同異議なし。

〃 その方法はどうするか。一同議長一任の声

〃 11人の選考委員を指名することはどうか。一同異議なし。この間緊急動議の提案あり。

上小支会から教養統合問題について一このままいくと学部は縮小さらに単科大学への望みもたち切られる。上小地区の文化交流、経済的観点からも大きな問題であるので、ここで反対決議案及びその方法について審議願いたい。

議長 役員選考委員会を別室で行ってもらい、のこった人でこれを審議願いたい。この案について意見の交換を願いたい。

東京 教養学部のありかたについては学部長の説明があって自分としては納得したと思っているが、たこ足大学の事態はなお良くわからない。統合がさげられないと云うなら、繊維総合単科大学としての方向をうち出した方がもっと特策であると思われる。

宮崎 これに対処するため、ここで学部長の説明だけでは解かると云う簡単な問題ではない。ある組織を作り、(代議員的)対策をこうじたらどうか。

この問題については学部の将来計画にとつても、上田市にとつても重大な問題だけに多数代議員、役員から熱意溢れる意見が陳陳、議事録でも20余頁にのぼっているが、紙面の都合上省略する。役員改選選考委員会を代表して石坂虎治郎氏(近畿支会)から選考結果報告があり万場一致拍手のうち新理事、監事役員が別紙役員表のとおり決定した。議長一評議員の選出については理事会に一任して宜しいか一同賛成。愛知支会ただ地域性、年齢別を考慮して選出してむらいたい。議長一教養統合の問題について結論を出してむらいたい。相談役一学部は学部、千曲会は千曲会としての意見を出しても良いではないか、単科になるということは20年来の願望であり、他の学部もこの事情は知っていることであるから、千曲会はもつとき然たる態度であつても良いではないか。この際統合反対の論者を強く上げたいという熱意を強く持っている。東京支会一上田に教養をおくという理由をはっきり出し、第3者が見ても納得のいく運動にしてむらいたい、その意見で同窓会、教授会でそれぞれ充分検討、密な作戦をとるようになされたい。議長一統合反対の決議を願いたい。代議員だけで結構。出席代議員全員賛成。議長一決議文の案件朗読を副議長に願いたい。議長一教育上の大議名文を掲げた文に役員会で修正することどうか一同賛同。相談役一今後の運動その他については役員会に一任したい。万場一致で決定。かくて総会全日程を終了。山口理事の閉会のことは、荻原前理事長の解任挨拶あり、午後六時から市内香青軒で懇親パーティーがあり第25回本会総会の全行事は滞りなく終了した。

昭和38年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳入決算額金 968,817円
 歳出決算額金 918,379円
 歳入歳出差引残高昭和39年度繰越金 50,438円
 昭和39年11月23日

社団法人千曲会理事長 荻原清治

歳 入					
種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.基本財産より生ずる利息	81,150	84,300		3,150	貸付信託 電話債券
2.前年度繰越金	50,898	40,000	10,898		
3.雑 収 入	55,319	98,200		42,881	
1) 廣 告 料	44,620	76,000		31,380	年賀暑中 広告料 会社広告
2) 印 税	—	100		100	記念風呂 敷 網糸 の構造
3) 当座預金利息	3,999	3,900	99		
4) 雑 入	6,700	18,200		11,500	
4.入 会 金	74,000	60,000	14,000		新入会員 184人分
5.会 費	707,450	700,000	7,450		
6.寄 付 金	—	1,000		1,000	
合 計	968,817	983,500		14,683	

歳 出					
種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	86,310	84,000	2,310		
1) 代議員旅費	48,340	48,000	340		36名分
2) 総会需用費	11,730	13,000		1,270	
3) 役員旅費	14,960	15,000		40	役員会旅費
4) 役員会需用費	11,280	8,000	3,280		
2.事 務 所 費	226,531	263,100		36,569	
1) 幹事給料	—	100		100	
2) 書記給料	110,000	120,000		10,000	
3) 旅 費	37,700	37,500	200		支会給会 動静調査 用務
4) 備 人 料	15,450	35,000		19,550	
5) 役員交際費	6,345	5,000	1,345		
6) 賞 与	—	100		100	
7) 備 品 費	1,855	3,000		1,145	鉋、鋸、計 器 和洋紙類 和外 振替用紙 領収証外
8) 消 耗 品 費	11,926	13,400		1,474	
9) 会費取金費	34,563	35,000		437	
10) 通信運搬費	6,532	12,000		5,468	
11) 雑 費	2,160	2,000	160		
3.事 業 費	425,388	395,400	29,988		
1) 会報発行費	360,430	335,000	25,430		
(1) 編 集 費	6,898	10,000		3,102	
(2) 印 刷 費	197,900	180,000	17,900		10回会報 印刷費
(3) 送 料	146,152	135,000	11,152		
(4) 需 用 費	9,480	10,000		520	
2) 出 版 費	—	100		100	
3) 会員名簿発行費	50,000	50,000			名簿発行 準備費
4) 講演講習諸費	—	100		100	
5) 研究補助費	—	100		100	
6) 調 査 費	—	100		100	
7) 慶 弔 費	14,958	10,000	4,958		

4.基本財産造成費	74,000	60,000	14,000		
5.会費納入交付金	106,150	164,000		57,850	30支会会費交付金
6.予 備 費	—	17,000		17,000	
合 計	918,379	983,500		65,121	

昭和38年度基本財産状況

基本財産	基本財産保管状況
固定資産 1,114,600円	
不動産 1,114,600	長野県北佐久郡御代田町大字草越字 向原119の35. 663坪 昭和37年12月4日登記済 木造平屋建瓦葺 12.5坪
土地 563,550	
建物 551,050	
流動資産 1,037,161	
基本金 1,037,191	三菱信託貸付信託 420,000円 〃 金銭信託 43,538円 電信電話債券(額面69万) 573,653円

項 目	収 入	支 出	現在高	備考
前年度繰越金	963,191			
本年度利息収入	81,150			
本年度積立金	74,000			
通常会計繰入金		81,150		
各 計	1,118,341	81,150	1,037,191	

昭和38年度特別会計報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	449,660	雑費(慶弔費)	8,452
利子収入	23,359	楓荘建築費	300,000
合 計	473,019	合 計	308,452

差引残高 164,567円は昭和39年度に繰越す

昭和38年度特別活動資金報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	231,884	就職幹旋委員会費	
寄 附 金		旅 費	6,600
利子収入	10,332	募 金 経 費	
合 計	242,216	手 数 料	
		合 計	6,600

差引残高 235,616円は昭和39年度に繰越す

昭和38年度千曲会厚生施設(楓荘)報告

収 入			支 出		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	307,134		建築費	551,050	12.5坪 建築費
雑 収 入	6,665	普通預金 利子	施設費	24,360	500,000 中古家買 収51,050
預金利息	4,665	御代田町 役場など	調査費	10,320	
雑 入	2,000	竣工式祝 儀	公租公課	8,216	電灯、プ ロパン他

特別会計より繰入金	300,000	楓荘建築雑費充当	11,853	固定資産税不動産取得税竣工式費
合計	613,799		合計	605,799

差引残高 8,000円は昭和39年度に繰越す

昭和38年度千曲会菅平部分林管理費報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	146,760	調査費	2,730
雑収入	1,005	管理人謝礼	1,000
預金利子	1,005	手入費	17,524
合計	147,765	千曲会施設費	24,720
		合計	45,974

差引残高 101,791円は昭和39年度に繰越す

昭和38年度厚生事業収支報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	1,844	事務費	49,500
理髪代收	78,000	備品費	9,915
合計	79,844	消耗品費	4,360
		電気料	8,228
		借家料	6,203
		雑費	1,020
		合計	79,226
前年度繰越金	383	仕入金	1,188,348
売上高	1,292,290	運搬費	3,310
販売手数料	16,156	販売手数料	35,598
雑収入	166	組合費	2,595
合計	1,308,995	雑費	3,630
		事務費	70,000
		合計	1,303,484

差引残高 618円(理髪)及び5,511円(たばこ)は昭和39年に越す

昭和40年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳入予算額金 1,317,500円
 歳出予算額金 1,317,500円
 歳入歳出差引残高なし
 昭和39年11月23日
 社団法人千曲会理事長 荻原清治

歳 入		歳 出	
種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減
1.前年度繰越金	50,000	50,000	—
2.会 費	850,000	721,000	129,000
3.入 会 金	80,000	64,000	16,000
4.基本財産利子	90,600	97,800	2,800
5.施設使用料	20,000	19,000	1,000
6.雑 収 入	225,900	97,700	128,000
1)広告料	67,000	80,000	—
2)印 税	100	100	—

3)普通予金利子	4,300	4,100	200	—
4)名簿売上代	150,000	—	150,000	—
5)雑 入	4,500	13,500	—	900
7.寄 附 金	1,000	1,000	—	—
合 計	1,317,500	1,040,500	277,000	—

歳 出

種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	備 考
1.会 議 費	180,000	97,000	83,000	
1)代議員旅費	60,000	51,800	8,200	1200円 ×50人
2)総会需用費	30,000	20,000	10,000	懇親会補助
3)役員旅費	60,000	16,200	43,800	500×12 ×10
4)役員会需用費	30,000	9,000	21,000	
2.事務所費	380,006	249,200	131,400	
1)給 料	180,000	120,000	60,000	15,000円 ×12月
2)備 人 料	40,000	23,100	16,900	1,00×50 他
3)旅 費	63,000	40,500	19,800	
4)役員交際費	15,000	10,000	5,000	
5)賞 与	100	100	—	
6)備 品 費	5,000	3,000	2,000	
7)消 耗 品 費	20,000	14,500	5,500	
8)会費収金費	31,000	21,000	10,000	振替用紙 領収書 郵便切手 電信電話
9)通信運搬費	15,000	12,000	3,000	
10)雑 費	11,500	5,000	6,500	
3.事業費	424,900	418,400	6,500	
1)会報発行費	364,500	348,000	16,500	
(1)編集費	10,000	10,000	—	
(2)印刷費	202,500	190,000	12,500	4,500部 10回 10回送料
(3)送料	138,000	138,000	—	
(4)需用費	14,000	10,000	4,000	
2)出版費	100	100	—	
3)会員名簿発行費	50,000	60,000	—	10,000宛名カ 下外
4)講演講習諸費	100	100	—	
5)研究補助費	100	100	—	
6)調査費	100	100	—	
7)慶弔費	10,000	10,000	—	
4.厚生施設費	44,500	24,000	20,500	
1)備 品 費	20,000	—	20,000	温水器 管理費 水道料 電気料
2)管 理 費	11,200	10,800	400	2,500円
3)光 熱 水 料	5,800	5,800	—	固定資産 税保険料
4)公 租 公 課	7,500	7,400	100	
5.基本財産造成費	80,000	64,000	16,000	
6.会費納入交付金	187,500	174,900	—	1,500人× 150×0.7 200×500円 ×0.3
7.予 備 費	20,000	13,000	7,000	
合 計	1,317,500	1,040,500	277,000	

母校火災復興資金募集費報告書(昭39.11.18現在)

収 入 額	金 3,572,221円
支 出 額	金 458,523円
差 引 残 高	金 3,113,698円
差引残高の保管状況	定期予金 2,732,743円 定期予金(学内) 369,674円 普通予金 16,281円

収 入

項 目	予 算 額	36,5,25 現 在 (A)	39,5,25 以 後 (B)	(A)+(B)
寄 附 金	5,800,000	3,176,674	198,800	3,375,474
利 子		137,154	59,593	196,747
合 計	5,800,000	3,313,828	258,393	3,572,221

支 出				
項 目	予 算 額	39,5,25 現 在 (A)	39,5,25 以 後 (B)	(A)+(B)
会 議 費	20,000	10,390	9,610	20,000
旅 費	70,000	25,070	14,140	39,210
備 人 料	25,000	3,750	2,000	5,750
支 會 募 金 費	500,000	279,400	19,880	299,280
通 信 費	100,000	47,040	1,630	48,670
印 刷 費	30,000	24,400	3,800	28,200
消 耗 品 費	30,000	600	7,070	7,670
雜 費	5,000	4,650	93	4,743
予 備 費	20,000			
合 計	800,000	395,300	58,223	453,523

昭和38年度社団法人上田繊維科学振興会歳入歳出決算書

歳入決算額金	333,447円
歳出決算額金	329,200円
歳入歳出差引残高金	4,247円
翌年度繰越金	107,464円
差引残高金	4,247円
計 39年度へ繰越金	111,711円

財団法人上田繊維学部振興会理事長 柳沢延房

昭和38年度(財)上田繊維科学振興会歳入決算書

項 目	決 算 額	予 算 額	増	減	備 考
1 前年度繰越金	—	—			
前年度繰越金	—	—			
2 基本財産利子	241,138	237,600	3,538		
基本財産利子	241,138	237,600	3,538		電話債券 237,900 貸付信託 3,538
3 雑 収 入	2,309	1,600	709		
当座予金利子	2,309	1,500	809		
雑 入	—	100		100	
4 寄 付 金	90,000	90,000			
合 計	333,447	329,200	4,247		

昭和38年度(財)上田繊維科学振興会歳出決算書

項 目	決 算 額	予 算 額	増	減	備 考
I 事 務 費	31,736	34,400		2,664	
(1)手 当 及 旅 費	13,180	13,200		20	謝金
手 当	7,200	7,200			
旅 費	5,980	6,000		20	
(2)需 用 費	6,694	9,200		2,506	文具費
消 耗 品 費	2,834	3,700		866	
通 信 運 搬 費	1,825	3,200		1,375	
雑 費	2,035	2,300		265	千曲会報 広告料外
(3)会 議 費	11,862	12,000		138	
会 議 費	11,862	12,000		138	
II 事 業 費	190,000	221,000		31,000	
研究助成及表彰費	120,000	151,000		31,000	30,000 × 4

学会講演会補助費	70,000	70,000			
II 予 備 費	—	10,000			10,000
予 備 費	—	10,000			10,000
IV 翌年度繰越金	107,464	63,800	43,664		
翌年度繰越金	107,464	63,800	43,664		
合 計	329,200	329,200			

昭和40年度財団法人上田繊維科学振興会歳入歳出予算書

歳入予算額金	317,000円
歳出予算額金	317,000円
歳入歳出差引残高	なし

昭和40年度財団法人上田繊維科学振興会歳入予算書

項 目	本 年 度 予 算 額	前 年 度 予 算 額	増	減	備 考
1 前年度繰越金	70,000	63,800	6,200		
前年度繰越金	7,000	63,800	6,200		
2 基本財産利子	244,800	244,800			
基本財産利子	244,800	244,800			電信電話 債券380万 円の72% 貸付信託 元本10万 円の利子 72%
3 雑 収 入	2,100	2,100			
当座預金利子	2,100	2,000			
雑 入	100	100			
4 寄 付 金	100			100	
寄 付 金	100			100	
合 計	317,000	310,700	6,300		

昭和40年度財団法人上田繊維科学振興会歳出予算書

項 目	本 年 度 予 算 額	前 年 度 予 算 額	増	減	備 考
1 事 務 費	41,400	36,700	4,700		
(1)手 当 及 び 旅 費	15,600	13,200	2,400		
手 当	9,600	7,200	2,400		謝金
旅 費	6,000	6,000			
(2)需 用 費	9,800	9,500			
消 耗 品 費	4,300	4,000	300		
通 信 運 搬 費	3,200	3,200			切手 電 信電話料
雑 費	2,300	2,300			
(3)会 議 費	16,000	14,000	2,000		
会 議 費	16,000	14,000	2,000		
2 事 業 費	248,000	238,000	10,000		
研究助成及表彰費	178,000	168,000	10,000		37,000 × 4 件 30,000 × 1 件 学術講演 会20,000 × 2 回 特別講演 会15,000 × 2 回
学会講演会補助費	70,000	70,000			
3 予 備 費	27,600	10,000	17,600		
予 備 費	27,600	10,000	17,600		
4 翌年度繰越金		26,000		26,000	
翌年度繰越金		26,000		26,000	
合 計	316,900	310,000	6,900		

伊 藤 武 男 監 修

絹糸の構造

頒価 1,300円 送料当方負担

残部ありご希望の方はお申し込み下さい。

信州大学繊維学部内千曲会出版部

社団法人千曲会役員 (39.11.23改選)

名誉会長 小泉清明
 顧問 蒲生俊興, 倉沢美德, 八木誠政, 野口新太郎, 萩原清治,
 相談役 高木三治, 野崎 清, 橋詰英雄, 猪坂直一, 小宮山太助, 有賀文雄, 伊藤 鏡, 宮城 博, 鈴木教吾, 土屋茂一郎
 理事長 山口定次郎
 副理事長 小林運美, 母袋忠右衛門
 理事 青沼 茂, 井沢喜三, 石川 博, 江野村一雄, 江口晴雄, 遠藤恒久, 笠原正己, 香山清和, 加藤秀次郎, 春掛久雄, 小林尚一, 齋藤義臣, 坂口育三, 白井美明, 杉山一雄, 関 博夫, 田口亮平, 田口玲, 竹内善吾, 竹田 寛, 土屋幾雄, 北条舒正, 町田博, 松屋卓見, 水口米雄, 三石 賢, 和田晋飯田一郎, 中島 暹, 福地 進, 北条五郎右衛門山崎警録

評議員

○勝野貞哉, ○和田教, 向井政弥, ○山本友之丞, 栗原章, ○原田種亀, ○岸勝弥, ○船後勇平, 前沢康雄, ○高橋汎一, ○大沢宝市, ○武田一好, 奥村忠治, 宮前邦雄, 山本岩三郎, ○秋山利夫, ○長谷川敏夫, ○鶴田定平, 久保田不二夫, ○大山融, 安川寛, ○野沢司馬作, 阿部丈夫, ○箱山佳夫, 西沢正一, 山崎寿, 茅野功, 古川正喜, 西村国男, ○宮入保, 塚田典次, ○水井真吉, 中島真, ○浅野清志, 市瀬武寿, ○鈴木正悟, 横沢正雄, ○宮沢岬, 清水良一, ○村田一山, ○工藤見吉, 内川勇, ○緒方善之助, ○窪田盛, ○深迫明, ○中島茂, ○中山吉二, 小山長雄, 田中一行, 吉平福紀, 櫻井善雄, 押金健吾, 窪田衛二, 小山西, 土屋孝, 黒沢袈裟彦, 三谷勝, 小泉辰雄, 唐木田藤五郎, 有賀康人, ○高村弘, ○新野武雄, ○森剛夫, 松永省治, 若林寅雄, ○荒井猛, 池田正三, 小山俊吾, ○小松忠幸, 手塚政吾, 林清市, 松下紀男, 石坂虎治郎, ○磯部英一, ○小林清志, 大塚重藏, 岩本賢治, ○鈴木玄九, ○黒岩覚, ○山田良人, ○小山祖光, 篠原 昭, 宇根山哲夫, 多川澄平, 若林新一郎, 荒木慎藏, 上石睦二郎, 百瀬文雄, 桐本他喜男, 高島喜市郎, 武井和夫, 宇治義春, 藤井富美男, 根岸只吉, 櫻井隆夫, 川合久午, 佐藤一, 内藤邦雄, 永井千治, ○篠田正信, ○川久保元, 伊藤二男, 榎本健治, 青木実造, 加藤明, 安井健一, 星田馨, 中尾七郎, 飯島貞雄, 北沢茂樹, 小林英夫, 大谷隼人, 浅沼袈裟男, 一之瀬匡興, 美齋津利正, 篠原房江, 小山定, 宮下力, 阿久津伊平, 佐藤雅久, 伊藤常治, 池田忠夫, 今井甲子男, 丸田巖, 熊田喜代志, 小山田峻, 大屋正尚, 萩原秀治, 柳沢千代茂, 小出直人, 松本昇, 永井正彦, 金子隆一, 秋山昭夫, 小山金路, 川上保人, 林利金, 松沢秀二, 矢彦沢清允, 小笠原真次, 堀内徹, 武田兵助, 戸田正行, 藤形謹繁, 内藤善水, 岡田純, 柳沢幸雄, 田中茂光, 橋本久之助, 保科孝, 石川光也, 長谷川悟史, 森泉次夫 ○印は支会長

千曲会本部事務分担

	理 事	幹 事
庶務部	田口亮平 坂口育三	小山長雄 田中一行 窪田衛二
会計部	町田 博 土屋幾雄	阿久津伊平 田中茂光 小川原禎寿

会報部	小林尚一 竹田 寛 石川 博	一之瀬匡興 松沢秀二 小笠原真次 武井隆三 金井 清 篠原房江
動静部	関 博夫 遠藤恒久	押金 健吾 篠原 昭 美齋津利正 矢彦沢清允 小林 勝 島田 潤 小林 倫子
厚生部	白井美明 三石 賢	櫻井善雄 小山 定 滝沢達夫
学術出版部	松尾卓見 青沼 茂	吉平福紀 大屋正尚 柳沢幸男
上田織維 科学振興会	北条舒正 香山清和	

第25回千曲会定期総会出席者 (順序不順)

(宮 城) 北沢 周一 (福 島) 原田 種亀
 (群 馬) 黒沢袈裟彦 (埼 玉) 武田 一好
 (茨 城) 前沢 康雄
 (東 京) 荒木 喬 小泉 辰雄 齋藤 義臣
 加々井悦朗
 (神奈川) 松崎 滋
 (北佐久) 大山 融 中村 広 安川 宜
 (南佐久) 松永 省吾
 (上 小) 島田 林助 箱山 住夫 櫻井 隆夫
 西沢 正一 佐藤 一 若林 寅雄
 北条五郎右衛門 香山 清和 田口 玲
 茅野清三郎 竹内 善吾 和田 晋
 山崎 寿
 (更 埴) 清水 勝郎 湯原 淳
 (北 信) 西村 国男 戸田 正行 宮尾三世幸
 井沢 喜三 水口 米雄
 (飯 高) 水井 真吉
 (安 筑) 浅野 清志 永井 千治 水沢 久成
 (竜 川) 松下 紀男 (諏 訪) 小松 忠幸
 (静 岡) 小出 直人 堀込 宗吉
 (三 重) 鈴木 正悟
 (愛 知) 稲垣文一郎 石井 耕一
 (近 畿) 石坂虎治郎 (京 滋) 宮沢 岬
 (宮 崎) 中島 茂
 (顧 問) 蒲生 俊興 倉沢 美德
 (相談役) 猪坂 直一 高木 三治 小宮山太助
 宮城 博
 (学 内) 小泉 清明 野口新太郎 萩原 清治
 山口定次郎 田口 亮平 白井 美明
 町田 博 小山 長雄 松沢 秀二
 高沼 重義 関 博夫 武井 隆三
 山崎 警録 石坂 尊雄 押金 健吾
 矢彦沢清允 北条 舒正 石川 博
 竹田 寛 白井 注芳 篠原 房江
 坂口 育三 大屋 正尚 土屋 幾雄
 吉平 福紀 小林 倫子 田中 一行
 小林 尚一 美齋津利正 大谷 隼人
 遠藤 恒久 青沼 茂 小山 定
 小林 勝 白井 要範

会 員 動 静

新名簿頁	会員名	学科名	支会名	勤 務 先	住 所
38	宮前 邦雄	蚕 12	東 京	勤前のとおり	東京都世田ヶ谷区2の33の4 電 (414) 5659
44	雨宮 金雄	蚕 17	東 京	東京都北多摩北部事務所長	八王子市明神町122 電(2)7685
46	橋本 亘司	蚕 17	上 小		上田市新田町2056
63	清水比呂夫	蚕 28	北 信	長野県庁総務部消防防災課管理係長	
76	堀内 益雄	蚕 35	埼 玉	堀内文具店(自営) 川口市仁志町2-45 電 (482) 52-5031	
88	深井 靖男	学織 2	北 信	長野県人事委員会事務局任用係	
100	中村 清	学織10	北 信	長野県庁人事委員会事務局給与調(長野市県町)	住前のとおり
105	清水 好	農 1	北 信	長野県庁農政部畜産課草地係長	
105	宮本 真雄	農 1	北 信	長野県企業局建設部住宅課融資住宅係長	

特許・実用新案・意匠・商標
出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591)0764・0765

弁 理 士 浜 香 三
弁 護 士 中 猪 之 助
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

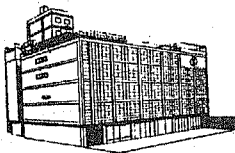
編 集 室 より

1965年の新春を迎え会員並びに読者の皆様には、いよいよ
よご健祥のことと存じ心からおよろこび申し上げますと
ともに、ますます活躍いたされまよう祈念いたします。

今年から、私達が会報の編集を担当することになりました。
前号にて予めお知らせいたしましたように、今年度から
会社、研究所、官庁その他の機関を訪問して、会員皆様
ご活躍の状況を会報に掲載することを企画いたしました。
つきましては、会員皆様の絶大なるご協力を賜りたくお願
い申し上げます。

年頭にあたり、皆様の各方面でのご活躍と発展とをご期待
いたしてやみません。

編集委員 小林尚一、竹田 寛、石川 博、一之瀬匡興
松沢秀二、小笠原真次、武井隆三、篠原房江
金井 清、白井要範



皆様の百貨店

上田・中央



オルガン

ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北野 次 登

長野市県町524
東京都中央区銀座1の5北野ビル
大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル
松本・高田・ジャカルタ

為替のご用は


はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金

口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店